

「品質保証に関する（食品添加物）学習会」

アンケート結果

2024年10月からコープ委員会で、「食品添加物の役割とその安全性」と「これまでの生協の食品安全の取り組み」について広報誌「Hakaru(はかる)」を活用した学習会を実施し、あらためて現在のコープこうべの「食品添加物自主使用基準」について再確認いただきました。

また、10月以降には、職員を対象にした同様の学習会を実施しました。

学習会終了後の参加者のアンケートからは703件（組合員316件、職員387件）、学習会を実施いただいた所属長からは143件のご意見・ご感想・ご報告をいただきました。アンケートへのご協力ありがとうございました。



学習会の意見・感想は、どのようなものがあったの？

主な意見は以下の3つでした。

1) 「食品添加物の役割と安全性」の理解が深まった

- ひとくちに食品添加物といっても、色々な役割をはたしていることが分かった。
- なんとなく食品添加物について不安を持っていたが、理解を深める良い機会になった。
- 今まで添加物が入っているとイヤな感じ、危ないと思っていましたが、安全性が確認されていることが分かって良かったです。
- 食品添加物は食品安全基本法のもとに、コープこうべの使用基準に基づき適正な管理が行われていることを学習しました。正直「Hakaru (はかる)」を今まであまり丁寧にみていなかったので、今回動画も併せて見ました。これらはコープこうべの2030ターゲット取り組みにおける、「くらしの安心づくり」「健康でいきいきした毎日」につながっていくものだと思います。

2) 学習会の内容は理解するものの、食品添加物への不信感・抵抗感が残る

- そもそも「食品添加物」という単語に負のイメージがあり、今日の話聞いて理解はするもののやはり抵抗感が残る。
- 添加物に関してさまざまな表示が商品に情報提供されているが、それを消費者としてどう判断したらいいのか分からないことが多い。なぜそれを使っているのかなど知りたいことを知ることができない。
- 基本は国の基準で、生協として部分的にしか自主基準を持たないのは、生協の取り組みとして後退したように感じる。

3) 生協の食品安全の取り組みをあらためて知る機会になった

- 「(食品の安全を確保するための)食品衛生法改正の署名運動」の取り組みを知らない職員が多かった。生協は「食品添加物自主使用基準」で管理されているなど理解できたと思います。
- 改めて食品添加物のことを学習し、生協の原点を垣間見たようだった。このような歴史を含めた消費者運動としての生協の取り組み経緯を学ぶことは、生協で働く職員としては大切だと思う。今後も商品に対する学習はいろんな角度で実施していきたい。

正しい情報を得るため、 行政機関（食品安全委員会）の サイトを見てみよう



アンケートでは、「海外と日本では使える添加物が違うのはなぜ？」
「添加物の複合影響はあるの？」というご質問をいただきました。国の機関である
「食品安全委員会」のサイトで詳しく解説していますので、ぜひご覧ください。

食品添加物は危ないの？複合的な影響は？
— 添加物に関する質問に川西徹委員がお答えします—



食品安全情報マップ
食品添加物のページ



今後の生協の食品安全の取り組みは？

1

消費者団体として、「食品安全行政」に積極的に関わり、
日本生協連を通じて積極的に意見を述べることで、
国の食品安全行政の信頼感を高めていく。

2

正しい食品安全情報をもとに、組合員（職員）と
リスクコミュニケーションに努める。



食品安全についてもっと興味を持とう！

食品の生産、製造・加工、流通、供給、消費に至るまでのフードチェーンに関わる職員、組合員のみなさまには、食品安全の知識を身につけていただきたいと思います。
食品安全について疑問に思ったり、もっと学習したいときは、コープこうべのサイトや行政のサイトをご参照ください。

コープこうべのサイト

商品検査センター
ホームページ



コープこうべ公式サイト
「食品安全」の取り組み



食品安全委員会

キッズボックス



消費者庁

食品安全に関する
取り組みのページ

